

自彊前進

題字 西村直子

NO. 11 令和4年5月27日(金)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより

文責 教頭

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと
(校歌3番の文言から)

雨が降れば成功だ…?

「ときわ体育祭」と「すなやま完歩大会」を「飛翔祭」とし、2つの行事をつなぐ創造的な活動により、期待が高まっていたところでしたが・・・当日はあいにくの雨でした。飛翔祭実行委員が開拓した新しいルートは、校歌の3番「砂丘の松」「久遠に奏ずる日本海」「流れて息まざる信濃」を感じさせる素晴らしいコースでした。加えて、信濃川の上、横、下を通るという稀なコースです。

「First Impact～きょうどう、全力、創造～」というスローガンについて、皆さんの振り返りはどうだったでしょうか？もし木曜日開催にしていたら、昨年同様小針浜や五十嵐浜に行き、戻ってくるだけのルートだったことを考えると、雨の中大変な部分もあったかと思いますが、実施できて本当に良かったです。

前号でも紹介したとおり、完歩大会は昭和52年(1977年)に始まり、「木曾路の旅」とペアで計画し、3年間で100kmを歩くことを目指した行事でした。公立学校の「修学旅行」では、観光的な要素が取り入れられていますが、附属中学校の「旅」は、「自然と歴史と人々の生活に触れること」を目的とし、特に昭和52年から20年間は、木曾路、尾瀬、田沢湖、出羽三山、塩の道、信濃路とひたすら歩く旅を実施しました。

不思議なことに、当時の旅では、「雨が降れば成功だ」と語り継がれていたようです。その意味について、多くの先輩がそれぞれの考えを記念誌に残しています。創立40周年記念誌「翔」には、多くの旅行記が掲載されていますが、タイトルがユニークです。『雨の宿場町で見たもの』『限界に挑む』『“人間文化再見の旅”で得たもの』というタイトルは、一般的な「修学旅行」のイメージとはかけ離れています。

その後、「旅」の「自然に触れ歩き通す」という目標は、すなやま完歩大会が始まってから、この行事に受け継がれました。開催当初は、1年生は一番距離の短い一般コースしか選択できませんでしたが、今年度、1年生の1/3以上の生徒が、挑戦コース35kmを選択したと聞き、とても驚いています。今回雨でコースは設定よりも短くなりましたが、今後もこのコースを継承していった場合、3年間で100km近く歩くことになりそうです。大きな目標となります。

雨が降った今回のすなやま完歩大会、皆さんにとっては成功でしたか？

